

2 果樹除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 散布実面積当たりの使用薬量を厳守し、薬液が栽培樹の枝葉にかからないように注意して散布する。
- ② 少量散布の場合は、専用ノズルを用い、雑草の葉面が軽く均一に濡れる程度に散布する。
- ③ 土壌の流亡や法面の崩壊のおそれがあるため、傾斜のある園地では使用しない。
- ④ 散布後の降雨で効果が低下することがあるので、天気予報を把握したうえで散布する。
- ⑤ 地力低下を防ぐため、除草剤使用は年間1～2回にとどめ、堆肥などを補給して土づくりに取り組む。

(2) 使用方法

- ・ザクサ液剤、バスタ液剤、プリグロックスL、ラウンドアップマックスロードにおいて、ウメ、ナシ、カキ、ブドウ、ミカン(カンキツ)、イチジク、キウイフルーツ、モモ、スモモ、リンゴ、クリで登録がある。
- ・使用基準等については、各薬剤のラベル等を十分に確認する。

(3) イチジクの除草対策

- ・イチジクは水平方向に根が広く分布する浅根性の樹種であるため、除草剤の使用は極力避けて手取り除草を行う。
- ・反射シートの敷設は、雑草抑制に加えてアザミウマ類の被害防止対策に効果がある。